



パンク おとぎばなし

5月22日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

5月22日のおはなし「パンクおとぎばなし」

大徳治朗は天下の誉れ。並ぶ者なき夢想の輩（やから）。天下夢想た、やつのこと。今日も今日とて京都にのぼる。のぼる道筋なじみの村の、いかつい親父の構える小店（こだな）、峠の団子、渋茶を脇に、語らううちに一大事。山の中に潜みたるへんでろ毒の大蛇（おろち）がぬたり、ぬたりぬたりと姿を見せる。

「あれま、どなたか助けてくりゃれ」絹を裂くよな女人の叫び。押っ取り刀で駆けつけて、大徳治朗が見たるもの、頭だけでも背丈を超えて、雪隠小屋ほどかさがある。長い身体はいまだ山中、尾は尾だけにはるか尾根筋、早い話が山一つ、上から下まで一つに結ぶ、これぞまさしく山の神。

うわっくと開いたその口の、中を見通す遠近法、遙か奥には何年も、前に行方が知れなくなった、村の娘の姿も見える。それを見かけて大徳治朗、思わずふらりと足踏み出す。それもそのはずその娘、大徳治朗の想い人、懸想の気持を伝えたら、「嬉しやうちも同（おな）いやし」、想い想われ添い遂げん、矢先に行方知れずになった。

意想外にも元気な笑顔、見れば治朗に手招きもする。光当たらぬ大蛇の腹で、ますます色白娘の肌は、腹の闇でもぺかりと光る、この世のものとも思われぬ、壮絶異界の美しさ。「やあやあ娘いざ久し、私の腕（かいな）にかき抱かん」大音声に呼ばわった、おのれの声聞きふと我に、返るはさすが大徳治朗。

これぞへんでろ毒のまやかし、なんの騙されるものかはと

「ねえそんなんじゃなくて」

ふとんの中から娘が言う。不満げに目を見開いている。ちっとも眠れなさそうな顔だ。

「なんだ」

「おもしろいお話しして」

「おもしろいお話じゃないか」

「そういうんじゃなくて、楽しいの」

なかなかむずかしい。明日は幼稚園の運動会。なかなか寝付けぬという娘にせがまれて、お話をしているのだが、どうも楽しくないらしい。

「楽しいの、か」

「うん、楽しいの」

この話、おれはけっこう楽しいんだがな。まあいいか。楽しい話、楽しい話と。おれは宙を睨んで少し考える。そしてふと楽しそうな設定を思いつく。

「じゃあ」

「うん、なにになに？」

「貯金箱の中からでてきたおかしなやつの話をしてやろうか」

「うん！」

「それじゃいくぞ」

じゃらんじゃりじゃり黄金（こがね）の山を、踏み分けいでたる男（おのこ）がひとり……

（「貯金箱の中からでてきたおかしなやつの話」 ordered by atohchie-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro）

新作スタート。お題募集中。

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」
をご活用ください。

パンクおとぎばなし[SFP0325]

<http://p.booklog.jp/book/36492>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36492>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36492>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.